

集団災害自己対策訓練

農薬漏れ想定実施



9月7日、錦江町田代支所にて大隅肝属地区消防組合と肝属郡医師会、錦江町消防団など約150名が、農薬漏れを想定し集団災害事故対策訓練を行った。

訓練は、救急の日になんて行われ、農薬を積載した軽トラックとバスが衝突し、農薬漏れによる中毒者と傷病者が出た

と想定し実施された。化学防護服を装着した特別救助隊や防毒マスク姿の救助隊、負傷者の治療優先度を判断するトリアージを1次救助所の医師会病院が行い、本番さながらの救護活動に携わった。

優先度	分類	色別	身体所見
第1順位	救急治療	赤 (I)	生命が危機的状態 ただちに処置が必要
第2順位	準救急治療	黄 (II)	多少処置が遅れても 生命に影響なし
第3順位	非救急治療	緑 (III)	軽度外傷 通院加療可能
第4順位	死亡	黒 (0)	生命兆候なし 直ちに処置を行っても救命が 明らかに不可能なもの



※トリアージとは、病気やケガなど、負傷者の治療優先を判断するもの

錦江町は農業が基幹産業の町でもある為、農薬など扱うことが多い。もしもに備えて、連携をとりながら実践的な訓練を行うことは重要と感じた。